

「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクト

沖縄県恩納村（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

沖縄本島のほぼ中央部の西海岸側に位置し、人口約11,000人で沖縄科学技術大学院大学やリゾートホテルの増加により外国人を含め人口は増加傾向にある。しかし、年少人口より高齢者の増加率が高いため、少子高齢化が進んでいる。

また、観光リゾート地として成長し、第3次産業の割合が高いが、その恩恵が村民にもたらされていない。

サンゴの保全【環境】を通して、海洋資産・観光資源の高付加価値化【経済】を図り、それを付加価値の高い産業、雇用【社会】につなげ、農水産業から観光まで多様な産業が発達し、全員参加型の持続可能な社会を目指す。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

「サンゴのむらづくりに向けた行動計画」に基づいて、サンゴをはじめとする豊かな自然環境の保全により、観光産業の高付加価値化を図り、その収益が村民に還元される仕組みを構築する。そのため経済、社会、環境それぞれで現在の取組を進化発展させ、SDGsの普及啓発等を実施し、それらの取組を統合するための「サステナビリティ・ハブ」の構築を行う。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

- 恩納村に1校ある「恩納村立うんな中学校」3年生が産官学連携により地域課題解決を図ることを目的に、子どもたちには成功体験と社会とのつながりを感じてもらう事業としてパートナーシップによる各種商品開発を実施した。
- 恩納村の「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクトをより村内外の住民・企業に知ってもらうため、令和6年1月に開催された恩納村産業まつりと同時開催で「サンゴの村フェスタ」in恩納村産業まつりを実施した。



6. 取組成果

- 「恩納村立うんな中学校」3年生は3組あり1組ごとに「環境」、「観光」、「防災」の地域課題解決を図るため、「環境」では下水道に着目しマンホールを製作、「観光」では恩納村の観光資源である歴史ロードを主体としたCM制作、「防災」では自然災害が発生した場合に重要となる防災食を開発した。
- 村内外6団体に協力していただき、「サンゴクイズ」や「ペーパー君との環境プログラム体験」、「マイクロプラスチックの観察」、「エコバックづくり」など、様々なワークショップや展示で「サンゴの村宣言」を知ってもらいイベント「サンゴの村フェスタ」を実施し、約2,000人の来場者にお越しいただいた。



5. 取組推進の工夫

- 中学生の地域課題解決事業を推進するにあたり、業務を横断的に進める必要があることから、SDGs推進をまとめる企画課のみならず、役場の様々な課と連携し事業を進めた。
- 地域活性化企業人を配置することで異なる視点とスピード感を持って事業を推進することができた。

7. 今後の展開策

- 中学生の地域課題解決事業が、地域や様々な企業から好評であることから、2030年まで継続し、子どもたちに成功体験と社会とのつながりを醸成する。
- 毎年5月から6月に東京池袋サンシャインシティで開催されている「沖縄めんそーれフェスタ」で、「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクトを更に普及すべく、展示等を実施する。

8. 他地域への展開状況 (普及効果)

「サンゴの村宣言」ということで、毎年3月5日（サンゴの日）に「Save The Coral Project」として、村内外から280人のボランティアの協力のもと、サンゴの植付、ビーチクリーン、陸域のクリーンアップを実施した。

「サンゴの村宣言」の取り組みが評価され、県内外から恩納村の取り組みに対する問い合わせや、ヒアリング等に対応した。